



japanordic  
北欧研究所

# デンマーク 自動車利用の背景

2017

津久井柚花



## 調査の背景

先日催された「東京モーターショー2017」では、各メーカーの電気自動車に関する展示が目立ち、日本国内、日本の自動車メーカーも電気自動車化が無視できない傾向になりつつある。

同じく欧州では今、これまでにないほど、ガソリン車からEV(電気自動車)へのシフトチェンジについて議論が活発に行われている。例えばドイツでは現在、2030年までにガソリン車等の販売を禁止できるよう議論がなされている。同様にフランス、イギリスでは、2040年までにディーゼル車およびガソリン車の販売を禁止する政策方針が打ち出された。

デンマークも例外ではなく、2050年までに化石燃料の使用を廃止し、ニュートラルな社会を目指し奮闘している国のひとつである。ではそんな欧州、デンマークの実情はどのようなのだろうか。



## デンマーク国内の現状

近年、欧州はよりクリーンなエネルギーを求めバイオエネルギーや風力などの再生可能エネルギーの積極的な活用が進んでいる。我々が住むデンマークでは80年代より進められる風力発電の利用がますます発展しているばかりか、更なるクリーンエネルギーの先鋒として自転車のための高速道路が開通したり、空気環境コンシャスの街コペンハーゲンのためにITを活用したり、環境に良い社会を作るための政策や企業活動が率先して進められているように思える。

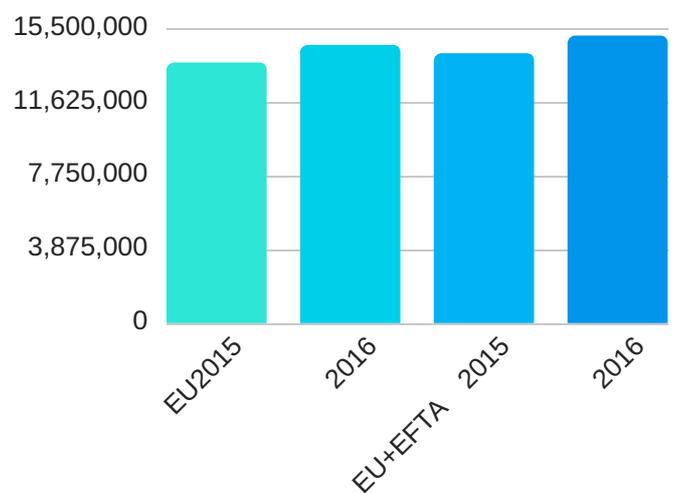
しかしながら、関連する統計に目を向けてみると、少なくとも交通分野では、印象とは異なった欧州の姿が見えてくるようだ。この不都合な真実とも言える現象を少し紐解いてみたい。

2016年、EU27か国の乗用車新規登録台数は、前年比6.8%増の1,464万1,356台。

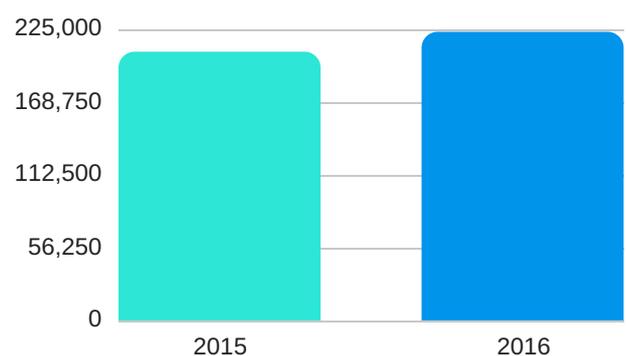
その中でも自動車に否定的で自転車シフトが進んでいると思われるデンマークでは、前年比7.4%増の222,927台と意外にも自動車は増えている。

2015年のデータでは、デンマーク国内の乗用車の台数は、273万6千台であり、人口1000人あたりの自動車数は487台と、単純計算では約半数が所持していることになる。

欧州の新規乗用車登録台数



デンマークの新規乗用車台数



## 不都合な真実

そんなデンマークの自動車の内訳を見てみると、2007年からここ10年でガソリン車、ディーゼル車の新規登録台数が上昇していることが分かる。

それに対し、電気自動車の普及率は、税の優遇施策を開始した2010年から上昇し始めたが、その取り組みの廃止が決定した2015年をピークに、翌年の2016年には80%も登録台数が減少している。

## EVの伸び悩み

新車の4割が電気自動車で、これまで他国をリードしてきた電気自動車大国ノルウェーにおいても、電気自動車所有者が再度購入を検討すると答えたのが半数に留まったことが、2016年6月付けの日本ヤフーニュースで伝えられているなど、電気自動車普及の道のりは必ずしも平坦ではない。

最新の欧州自動車工業会(ACEA)による調査では、欧州で電気自動車の割合が1%を超えるのは、西ヨーロッパの1人当たりのGDPが3万ユーロを超える国だけであることが分かった。経済危機に陥ったギリシャ、EUに新規加入した中東欧などGDPが1万7千ユーロ以下の国では、割合はほとんどゼロに近かった。各国で大胆な施策は打ち出されており、注目はされているが、現状欧州では、電気自動車の普及率は伸び悩んでいることがわかる。

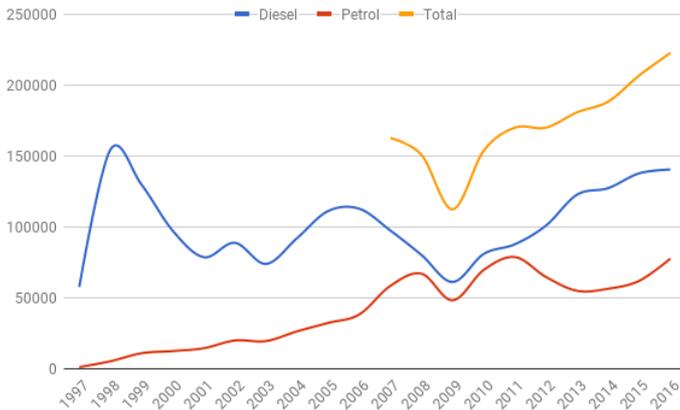
## 望みはあるのか

実際に環境に優しい交通手段の確立は困難なのだろうか。デンマークでは、近年各都市で積極的に進められる自転車利用の環境整備が注目されるが、この他に、大気汚染減少に貢献すると考えられるカーシェアリングがわずかながらであるが救世主となりそうな兆しを見せている。

同国のカーシェアリングは、残念ながら電気自動車利用ばかりではなく一般ガソリン車も利用されているが、それでも排気ガスを減少させるのに少しは役立っているだろう。

例えば、表にあるDriveNow(ドライブナウ)は2015年9月にドイツBMWがEV(BMW i3)400台で開始したカーシェアリングサービスで、キーカードに多くのデンマーク人が保有する交通カードを利用することで、利便性を高めたサービスを提供しているなど、各サービス特色を打ち出している。

デンマーク国内燃料別乗用車台数



カーシェアリング概要

<p><b>Letsgo</b> (自動車貸出型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>23歳以上が利用可能で、複数の会員タイプから自分に合ったものを選び利用する。</li> <li>タイプは主に、高級車の使用、必要な時のみの使用、車を所有する代わりに使用する3タイプがある。</li> <li>費用は使用時間と走行距離によって換算され、メンテナンス、駐車場所等は同社が管理。</li> </ul>
<p><b>DriveNow</b> (自動車貸出型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>89DKKで登録でき、アプリを使って車を検索、使用できる。</li> <li>費用は使用時間により換算される。</li> <li>車の駐車場所は電気自動車は専用の充電場所、一般車は公共施設、専用の駐車場等。</li> </ul>
<p><b>Carpool</b> (相乗り型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>無料で使用可能。通勤から旅行まで。</li> <li>メールアドレスを登録、出発地と目的地から最適な相乗りを選択。</li> <li>費用は各オーナーにより設定。</li> </ul>
<p><b>GoMore</b> (相乗り、貸出、リース型)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相乗り時の登録は無料で、出発地や目的地等から相乗り可能な車を検索でき、以前の同乗者のコメント等も見れる。</li> <li>所有している車を使わない間、他人に貸し出せる。</li> <li>協働会社からリースしている車を使わない間貸し出せる。</li> </ul>

# デンマークでの自動車利用 今後の課題

## 環境と利便性のバランス

現在のところ、デンマークの今後の電気自動車利用に弾みをつけそうな戦略は見つかっていない。ただ、デンマークのお家芸とでも言える産官学民で進めるソーシャルな仕組みが、デンマークの環境政策の遅れをカバーしているとも言える。具体的には、自転車ハイウェイの敷設や自転車利用の促進、そして今電気自動車や一般車を活用したほんのちょっと環境に優しいカーシェアリングサービスがそれに当たるだろう。

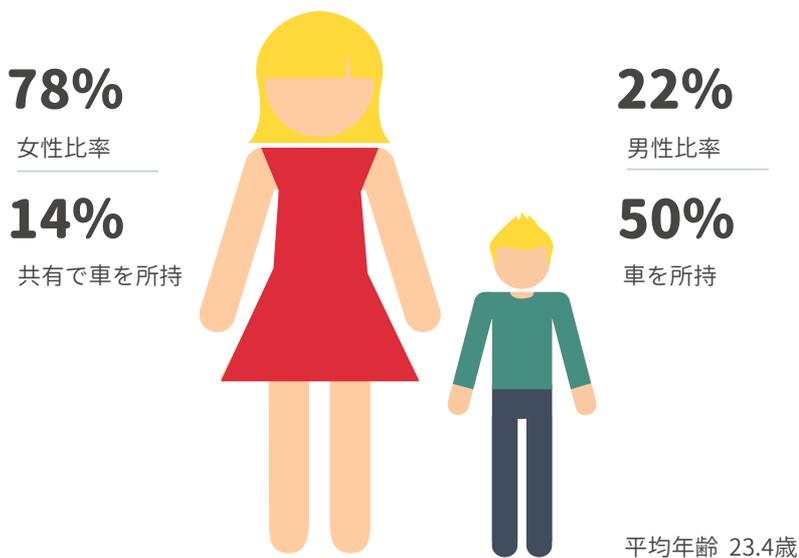
日本では、電気自動車シフトが進むことで車関連系列企業や請負産業へ負の影響が懸念されることから、自動車関連団体の圧力が少なからずあると言われる。しかし新産業が勃興することで従来産業が圧迫を受けるという構図は欧州も同じで、EU製造業の雇用者全体のうち11%は自動車関連の製造業である。

今まで各メーカーとも十分に魅力的な電気自動車を排出してきた。今後は日本も含む各国が、施策を通じて、どのように利益を生みつつ、環境に優しいエネルギーを使うか考えることが重要である。

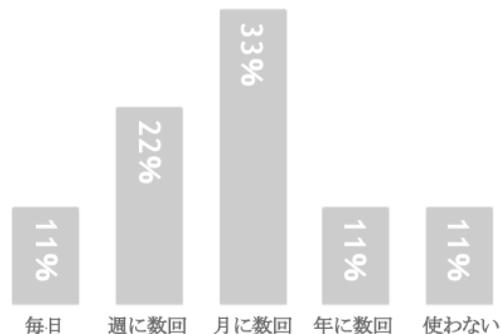
では、実際現地の人々は車に対してどう思っているのだろうか



# アンケートによる調査結果



## 使用率



## 所持していない理由



必要ない



汚染問題



その他の交通機関使用



高い



免許を持っていない

**78%**

の人が車は環境に悪いと回答



不便 22%

場所を取る 22%

高い 33%

11% 運転が好き

33% 便利

33% 必要

# 89%

車は男らしくないと回答



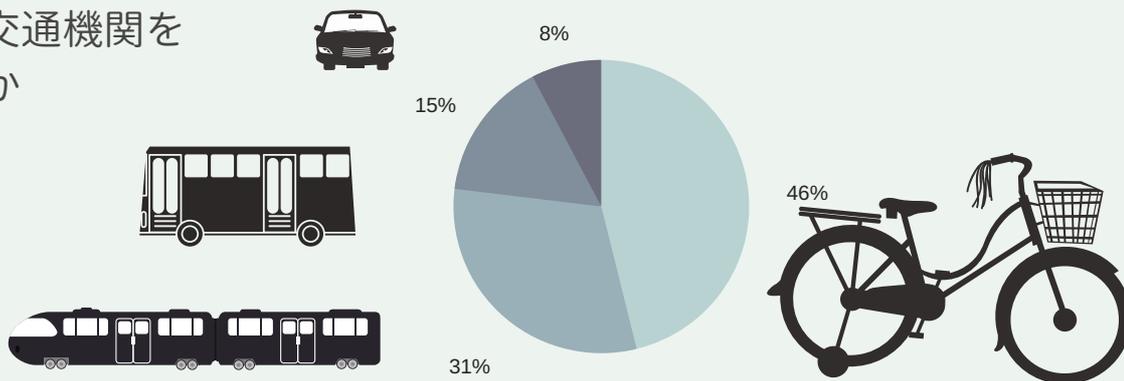
恋人とではどちらが運転



家族では誰が運転



## どの交通機関を好むか



## アンケート結果から考えられること

### 環境に悪いが、必要である

今回の調査では、78%もの人が車のイメージとして環境に悪いことを挙げており、若い世代にも環境問題が身近であることが分かった。また車を所有していない者のうち、29%が環境に良い車なら所有したいと回答し、EV車への税金優遇制度が実地された年に販売率が上がったことから同国のEV車の未来は決して暗くないことがわかる。

しかし前途にも記載した通り、税金優遇制度が廃止されてからはただでさえ高価なEV車は販売率が伸び悩んでいるのが現状である。車のイメージとして値段が高いことを挙げたのが33%だったのは、車への税金が150%の同国に対し、各メーカーが車両本体の値段を下げていることも考えられる。そういったことからEV車からディーゼル、ガソリン車へ消費者が流れたとも考えられる。

車を所有していない人の過半数が、車は必要ないと回答。鉄道、バス等の公共の交通機関が機能している同国の都会では車は必要ないように考えられている。しかし実際の登録台数は増加しており、今回数名が挙げたように、子育てや遠出では車が便利、必要ということが事実かもしれない。

### 車とジェンダー観

男女の平等性が高いことで有名な同国。車は男らしいと思うか質問したところ、そういった考えがあることを認めているものの、女性全員がそうは思わないと回答。男性でそう思うと回答した者もいるが、恋人とどちらが運転するかでは、女性は免許を持っていない人を除き自分もすると答える等、女性の強さが感じられる。そういった考えからも、自動車は男女ともに普及していることが見て取れる。